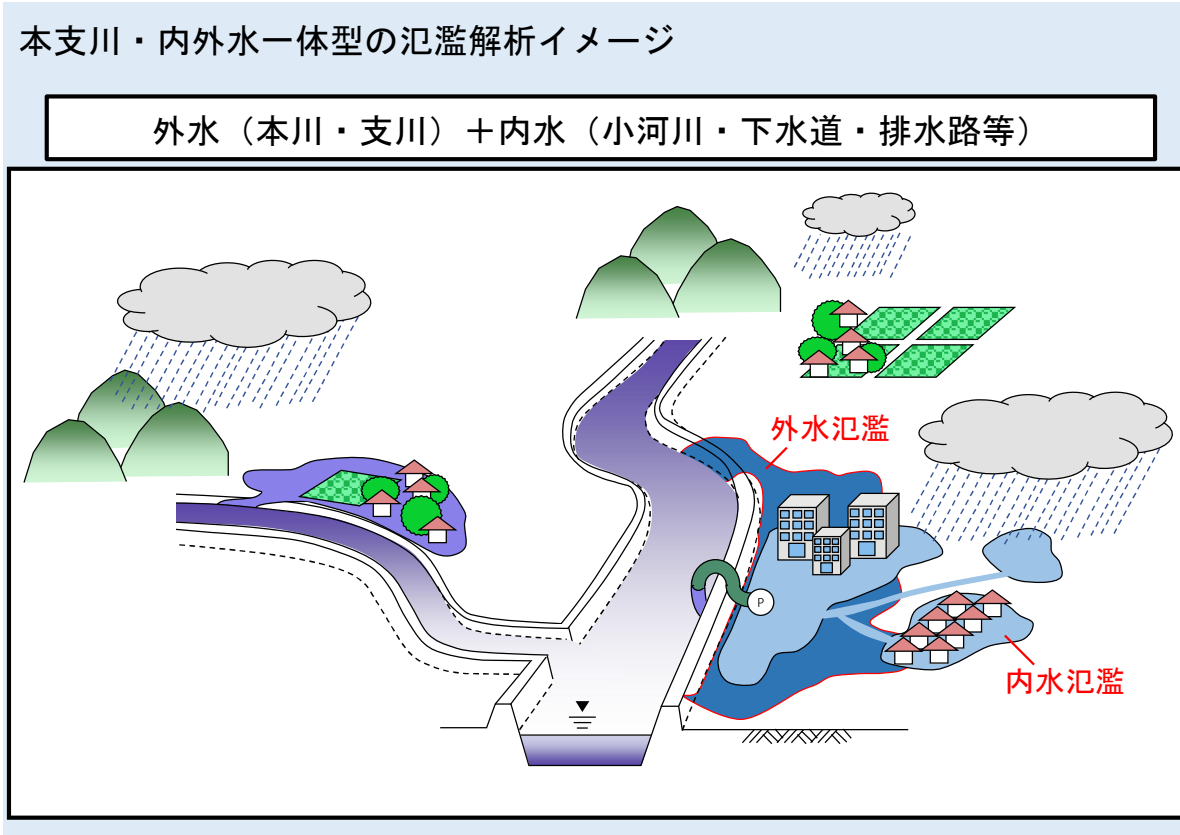
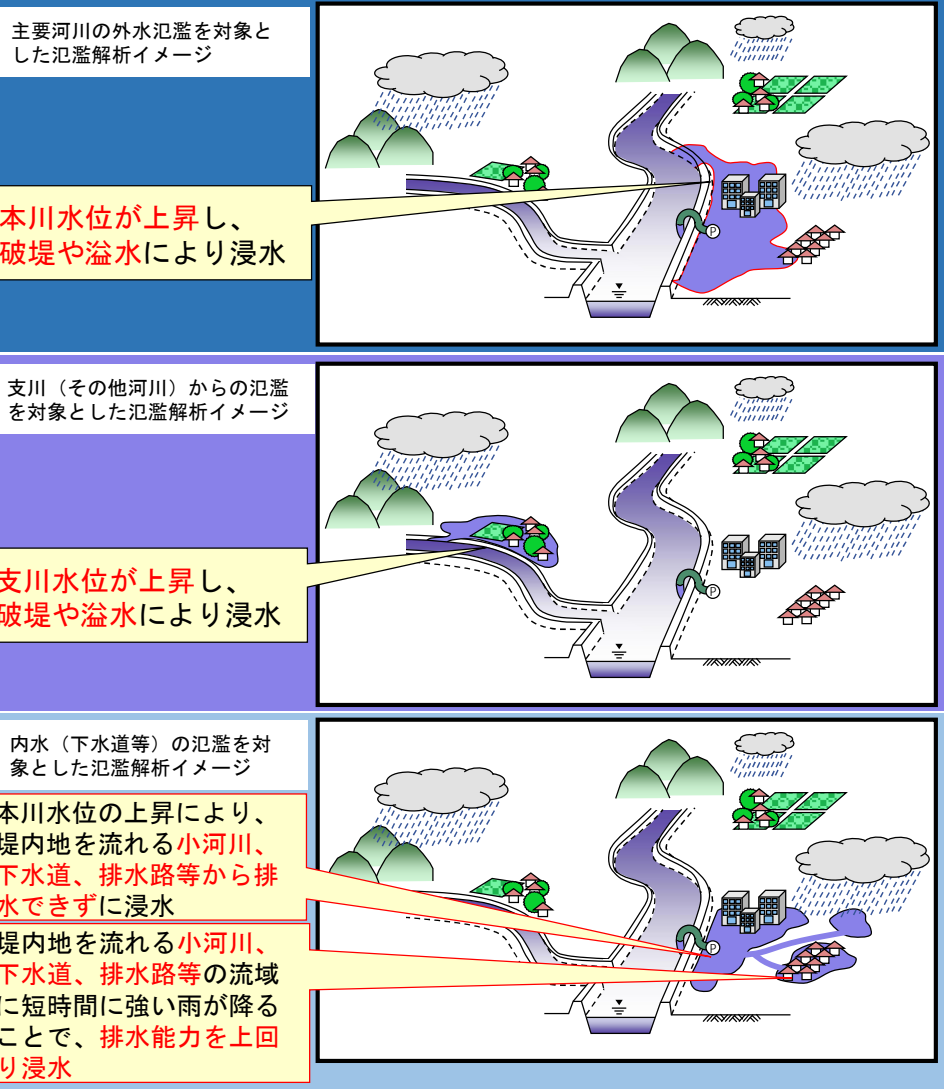


内外水統合型の水害リスクマップとは

- 揖斐川等の大河川の水位が上昇し、堤防が決壊した場合の最大の浸水範囲と浸水深を示した洪水浸水想定区域図は、避難計画や避難行動に用いる場合には有効であるものの、想定する降雨規模が大きいことや土地ごとの浸水の生じやすさが明らかとなっていないことから、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討などには活用しづらいという課題があり、**水防法に拠らず、比較的発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水状況や浸水の生じやすさ**を示す新たな水害リスク情報である**水害リスクマップ**を整備し、公表することにしました。
- 一般的に、目標の立て方や雨の降り方の違いなどから、大河川の堤防が決壊し氾濫する前に、堤内地での内水氾濫や支川からの氾濫が生じている可能性があり、**より実態に即した水害リスク情報**となるように、**揖斐川等の大河川の氾濫や支川からの氾濫に加え、内水氾濫も一体的に表現**するとともに、**比較的高頻度にかかる可能性のある降雨を対象**とした内外水統合の水害リスクマップとしています。



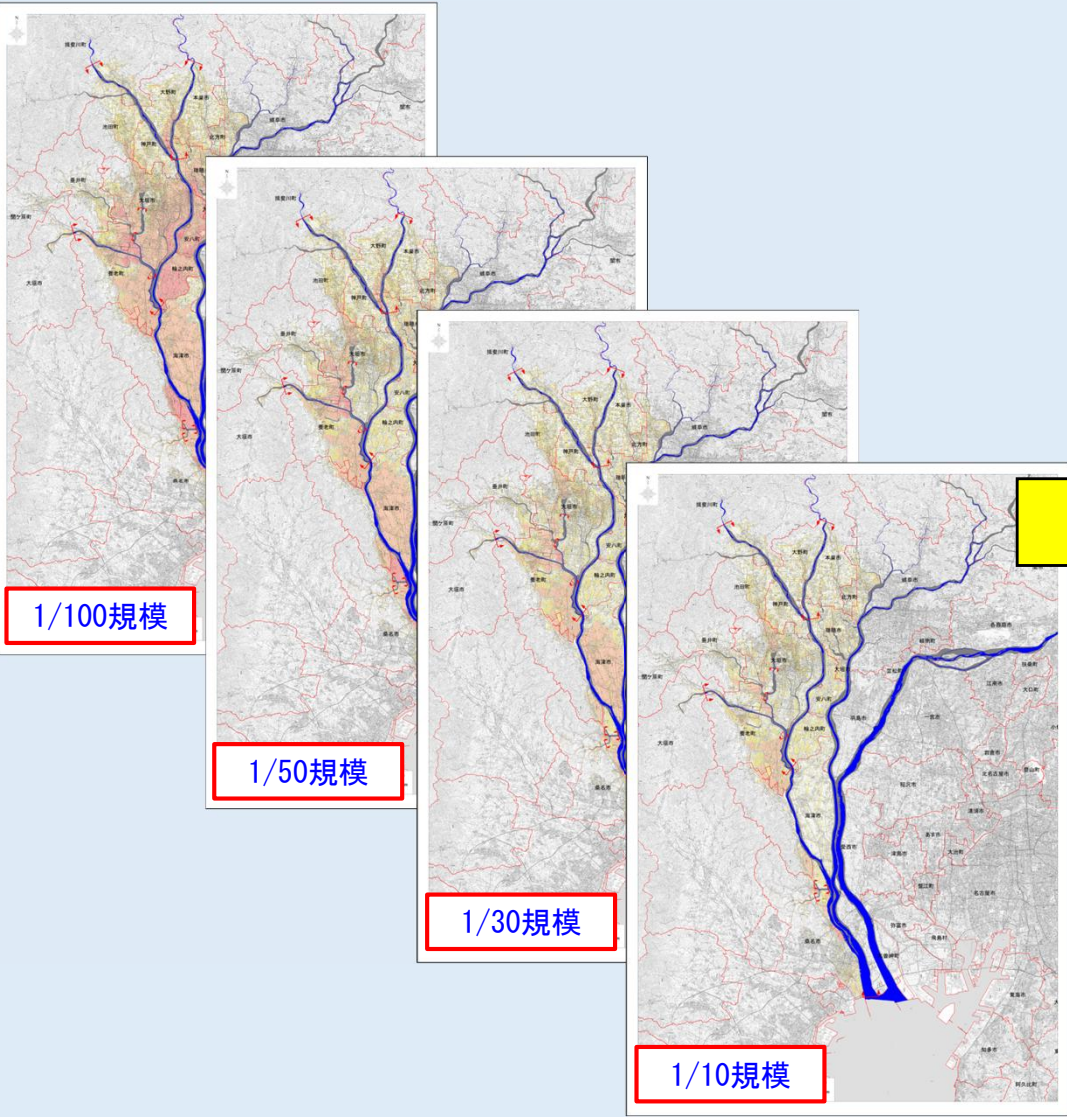
多段階の浸水想定図と水害リスクマップ

○土地利用や住まい方の工夫の検討および水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、降雨規模別に浸水想定図を作成しました。

○また、これらを重ね合わせて、場所ごとの浸水リスク（浸水のしやすさ）をあらわした水害リスクマップを作成しました。

①多段階の浸水想定図

降雨確率規模毎



②水害リスクマップ

本曽川水系揖斐川 国管理河川の氾濫を想定した水害リスクマップ
【現況河道】

